

2021年度 霞が関政策提言ツアー 実施報告書

実施日：2022年3月11日(金)

意見交換：財務省(主計局)、環境省、内閣府

参加者：赤井ゼミ学生18名、引率教員1名(赤井¹)



¹ 連絡先：赤井伸郎（大阪大学国際公共政策研究科教授）akai@osipp.osaka-u.ac.jp

目次

1. 政策提言ツアー企画の経緯.....	2
2. スケジュール.....	3
3. 写真.....	4
3. 学生感想・コメント.....	6
3.1 財務省.....	6
3.2 環境省 環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室@環境省.....	12
3.3 内閣府 PFI 推進室@内閣府(特別ゲスト:PFI 推進機構社長).....	15
3.4 阪大(東京) オフィスの印象.....	21
5. 政策提言ツアー実施の効果：企画者のコメント.....	22

1. 政策提言ツアー企画の経緯

大阪大学法学部国際公共政策学科赤井ゼミ所属の学生が2021年度に執筆した論文が、ISFJ（日本政策学生会議）において、最優秀賞を受賞した。論文において提言した政策に関して、実際に、その政策を所管する省庁に訪問し、提言を行うこととした。受賞した論文およびその他の班の論文は、環境省、内閣府（PFI推進室）の政策にかかわるものであり、その政策担当者と議論する機会を持つことにした。本ツアーに御協力いただいた多くの皆様には、学生に貴重な体験の機会を与えていただいたことに、深く感謝したい。

2. スケジュール

2022.3.11(金)

東京(霞が関)提言ツアー 午前パート



9:30	大阪大学東京オフィス集合（荷物を置く）※
9:50	大阪大学一同、財務省正門前に集合→会場へ
9:50-12:00	財務省プレゼンテーション 開催場所：中央合同庁舎四号館の第二特別会議室

10:00-10:45	プレゼン テーマ①PFI（内閣係） ＜時間配分：挨拶 5分＋発表 15分＋質疑 15分＞ 対応者：内閣 1 係 飯田主査
10:50-11:35	プレゼン テーマ②プラスチックリサイクル（環境係） ＜時間配分：挨拶 5分＋発表 15分＋質疑 15分＞ 対応者：環境係 大滝主査
11:40-12:00	調査課長との意見交換 ＜時間配分：挨拶 5分＋説明 5分＋質疑 10分＞ 対応者：大沢課長

2022.3.11(金)

東京(霞が関)提言ツアー 午後パート



14:00-15:00	環境省プレゼンテーション ＜挨拶 5分＋学生プレゼン 20分＋質疑 20分＋写真など 5分＞ 会議場所：環境省 環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室（23F） 対応者：江藤 室長補佐
15:30-16:30	内閣府プレゼンテーション ＜挨拶 5分＋学生プレゼン 20分＋質疑 20分＋写真など 5分＞ 会議場所：内閣府 PFI 推進室 8号館 8階特別中会議室 対応者： 内閣府民間資金等活用事業推進室（PPP/PFI 推進室） 参事官 福永 真一 様 参事官補佐 村松 剛 様 参事官補佐 芦原 嘉宏 様 参事官補佐 権藤 孝典 様 ゲスト：（株）民間資金等活用事業推進機構（PFI 推進機構） 代表取締役社長 足立慎一郎 様

3. 写真

財務省訪問〔午前〕と意見交換

内閣・公共係



環境係



調査課長



各省庁との意見交換会(午後)

環境省リサイクル



内閣府 PFI 推進室



3. 学生感想・コメント

3.1 財務省

財務省への政策提言での発表・議論（自分の班および、他の班）から感じたこと・学んだこと、財務省のハードの印象・財務省のソフトの印象（担当者）など

1. 建物の中は学校のような建物で、歴史を感じさせる反面、もう少し新しい方がモチベーションにもつながるのではないかとも思った。そこで働く人は思っていたより人間味があった。いろいろな人がいる。かなり失礼だが官僚というと機械のように仕事をこなす、ピクリとも笑わないような人たちがいるものだと思っていたが、そんなことはなく純粹にかっこよかった。フィードバックをいただいた際にも、実務をされているからこそその視点で意見をいただきとても参考になった。政策の目標数値や、その効果が具体的に分かることが重要であると知った。



2. 財務省の職員の方が、学生時代に政策提言を個人的に行っていたという話だったので、政策提言をするうえでのポイントなどをお伺いできたが、やはり納得感のある提言というのは、その提言によって、だれにどれだけ受益があり、またどれだけ負担も増加するのか（そのうえで負担を上回る受益がある）が明確であるのだと分かった。国民の税金を使って予算の配分を精査する省である財務省（の職員の方）だからこそ、一つ一つの政策が本当になされるべきか注意深く吟味されている印象をもった。



3. 財務省の建物は、学校に近いなと感じた。古さもあって、今から仕事をするぞという気分になる雰囲気だった。財務省の方々から、実際に政策を行うと仮定した場合の障壁などを教えていただき、理想はこうだけど現実は、といったお話が聞けて有意義だった。私たち学生も官僚の方々も、問題について考えるスタートラインは同じだということ

に気づけた。プラスチックを含む環境問題については、最終的にいかに国民に納得してもらえるかという部分への、官僚の方々の思いの強さを感じた。

4. 財務省では、自分たちが考えた政策に対して、財政的に実現可能かどうかという面で沢山のフィードバックをいただきました。やはり費用対効果の観点が非常に重要だと感じたので、今後の論文執筆において意識していこうと思いました。また、日本の経済についての講義がとても分かりやすかったです。労働生産性が低い根本的な原因や、金利の上がり下がり仕組みなど新たな知識を得ることができました。さらに、日本が抱える様々なリスクに対して今後どのような対策を行っていけばよいか教えていただき、経済政策への興味がさらに高まりました。
5. 実際に国の政策を作る仕事に携わっている方々に直接発表する機会に感謝するとともに、非常に緊張した。コメントや質問についても、データ及び日本の現在の状況と照らし合わせた説得力のある者が多く、来年実際に論文を書いて見る立場としても大変良い勉強になった。担当の方も、休憩時間などにはややフレンドリーに話すことが出来、省庁の実態をすこしだけ知ることが出来た。
6. 自分の班の発表に関して、実務の声を聴くことが出来、自分たちの班が考えた政策の実行の難しさを感じました。全体的なコメントの印象として、どのくらい自分たちの考えた政策が効果があるものなのかを定量的に示してほしいという声が多かったと思っています。来年度、政策を考える際に、参考にさせていただこうと思います。担当者様の印象として、国を動かしているというやりがいのもと仕事をされているのだと感じました。
7. 財務省は想像以上に年季の入った建物で、また中も広く道も入り組んでいるので、少し働きにくいのでは無いかと感じました。担当者の方々は皆様とても優しい方で、私たちの質問にも丁寧かつ分かりやすく回答して下さったのが印象的でした。政策提言の発表を実際に読ませていただいて、来年自分たちが主体で行なった研究がここで発表されることを考えると、モチベーションが大きく上がりました。
8. 主査の方が、最初の補助は政府が出したうえでそのあといかに事業を自走してもらうかという視点で政策を考えているのが印象的だった。たしかに、そのような政策を打ち出すことができれば、できるだけコストを抑えてより多くの問題を解決でき、理想的だと思った。ごみ袋有料化という政策については、金銭的には自走が可能であることを実現可能性の根拠の一つとしていたが、個人的にはそれは政策提言に説得力を増すためのものだという意識が強く、政策を進めていくうえで社会がよりよくなるための一つの要因になりうるとは思っていなかったのが新たな学びだった。財務省全体については、ドラマなどで悪役のようなイメージを持っていたが、ただ優秀な人たちの集まりなのだろうと感じた。
9. 来年に論文を書く立場としては、論文執筆に活かせる一般的なことが学びになりました。まずPF1班においては、受益と負担という枠組みについての指摘が参考になりま

した。当該政策のより具体的で詳細な影響を考える際に意識したいと思います。そしてプラスチック班からは、課税の難しさを解消することとしての納得感の必要性を学びました。国際観光旅客税を説明するときに、旅行する人自身が得となるような投資を行うという旨を言い、その整備は、旅行先も得をすることをおっしゃっていただきました。そのようなしっくりとくる、できればWINWINの関係というものを目指したいと思いました。

10. 政策提言発表を通じて最も感じた点は「実務の面での詰めの甘さ」です。担当者の方々からのフィードバックでは繰り返しその観点からの意見が述べられており、まだまだ論文の向上の余地があると感じました。担当者の方々は一貫して誠実さと情熱を兼ね備えていた印象でした。財務省の建物は非常に歴史を感じるものであり、働く際には身が引き締まりそうでした。
11. 財務省として、私たちが提言した政策を実施するための方法について、予算の面から意見や助言をいただき、非常に有意義な議論ができたと感じています。特に政策の費用対効果については、今までの発表においても指摘されていましたが、今回の議論でも同様の指摘をいただいたため政策を考える上で必須の項目であることを実感しました。また、財務省は省庁の中でも堅いイメージがありましたが、担当者の方々是非常に柔軟な印象で、財務省に対するイメージが変わったように感じます。
12. 現在起きている問題を経済学的手法で正しく説明出来ている点や、提言において都道府県などと調整を行えば施策として実現可能と評価を頂けた点が非常に嬉しかったです。環境問題は政策を実施した場合、どれだけ環境が良くなるかを具体的な数値で表せない点が難しいというお話がありました。私も政策の効果を具体的な数値で表すことに苦労しましたが、実務担当者の方も同様に悩まれていることが分かり、メリットと負担の関係を整理した上で皆が納得のいく政策を実施することの重要性を改めて感じました。また、政策を実施する場合、①負担はいくらか、②用途は何かの2点を分かりやすく伝えることが重要であることも学びました。来年度の論文はそれら2点を深く検討し、より実現可能性の高い政策を目指す必要があると思いました。
13. 両班に関して、やはり実際に行政に関わる人からフィードバックを頂ける機会というものは、非常に貴重で勉強になったと感じました。財務省の建物は、内装・外装ともに歴史のある建物だと思いました。担当者に関しては、両班の担当者ともに、論文をしっかり読んでくれていて、的確なコメント、アドバイスをくれた印象を持ちました。
14. 国の財務を司る機関であるという事を強く認識した。具体的には、施策の費用対効果や負担者と受益者の関係の話から実現可能な提言をするためにあたって、必要不可欠な要素を強く認識した。一方で、担当者の方の印象としては一人一人の職員の方が国のためにという役割を強く実感しつつも、私達の成長も考えて頂けていると感じた。この経験を得て、具体的な施策効果やお金に頼らないような施策の幅も広げていきたい。

15. 全体として、実務を想定した提案出なかったことを反省した。論文執筆時は心がけていたつもりだが、省庁の中にいる方はより現実的で、細かい実務上発生しうる細かい問題や国民の意見なども考慮されていた。今後は論文執筆以外でも当事者の実行部分を想定することを心がけたい。さらには、政策の効果を定量的に示し、誰かに営業（プレゼン）する意識が足りなかったことも感じた。ソフト面では、全体的にテキパキした方が多い印象だった。
16. アカデミックな視点と実務者の視点と両者からコメントをいただくことができ、非常に勉強になった。特に、受益と負担の関係と、その負担をいつまで課すかについては、執筆中にもう少し重点を置いて検討すべき事項であったと思う。また、省内について、財務省は他の省庁に比べて歴史ある建物であったので、時代に合わせて働きやすい環境を整えてもいいのではないかと思った。担当者の方に対しては、学生に対してもわかりやすい言葉で説明していただき、イメージ通り聡明な印象を受けた。
17. 印象に残った言葉は、「受益と負担は近いほうがいい」ということです。自分が政策を見るときに欠けていた視点だと感じました。また、パワポではなくポスターのような、一目で伝えたいことがわかる資料もあったほうがいいと感じました。加えて、現状分析は職員さんも知っている事実なので、提言に重点をおいた発表に作り替えたほうがいいのかではと思いました。建物については戦中～戦後ごろに建てられたということで、大阪府庁と似たようなレトロな感じがしました。訪問する側としては古い建物の中を見られて楽しかったのですが、毎日働く場としては空調がききにくそうで大変そうだと思います。

財務省食堂のランチについて。(阪大のいろいろな学食と比べて)。財務省職員の職場環境について感じたことも。

1. 学食ともあまり大差ない印象を受けた。もっといいものを食べてほしい。しかし活気があった。仕事に疲れて今にも倒れそうな人があるかと思っていたのだが全くいなかった。むしろ楽しそうな印象を受けた。



2. 具材が豊富で、またボリュームで、学生に好まれるランチという印象をもった。食堂で食事をされていた財務省職員の方は、ひとりで食べられている方もいたが、職員の方同士で時折話しながら食事をされていた方もいて、忙しい職員の方の休息の場を垣間見ることができ、少し心が和んだ。
3. まず、阪大の学食と比べて値段がリーズナブルだと感じたが、メニューの種類が少し少ないと思った。お肉系が多いのは、すごく嬉しかったが、毎日の食事となるともっとバリエーションがあった方がいいかもしれないと感じた。職場環境については、建物内に休憩できるようなカジュアル色強めのスペースがあるのかどうか気がなった。
4. リーズナブルでメニューも充実していると感じました。阪大の学食もですが、量が多いのでレディースサイズがあれば嬉しいです。財務省の建物自体は古くて歴史を感じましたが、トイレなど必要なところは改修されており、働きやすい環境だと思います。
5. 中央官庁の食堂ということで、やや豪華なものを想定していたが、意外にも庶民的で簡素であった。職場環境については、国を動かす建物で働くことが出来るという非常にやりがいがあるように感じたが、実際の労働環境を伺ってみると、やや過酷に聞こえ、再び心が揺らいた。
6. 財務省の職場環境について、明かりのせいか、建物の内部の雰囲気は暗いように感じました。財務省食堂のランチに関して、分量、メニュー共に、阪大の食堂とほぼ変わらないと感じました。
7. 財務省という国の中枢で働く人には正直もっと良いものを食べて欲しいし、食べていらっしやると思っていました。日々国のために頑張っている官僚の方々にはもっと良いものを食べてもらえる環境があると、職務効率も上がりそうだと感じました。
8. 食堂のご飯はコスパがいいと思った。主菜、汁物だけでなく漬物もついているのが驚いた。量も多く、ハードな仕事に見合った食事量だと感じた。職場環境については、部屋や建物自体は古いかもしれないが女子トイレはとても綺麗で、女性参画のためか女性の気にするところはきちんと手が入れられているのが少し面白かった。
9. ランチについては、低カロリーのメニューが用意されていて、種類も適切なレベルだと思いました。人気の商品が売り切れていました。人気とわかっているなら、それを多めに用意するなどできないのかなと思いました。食べる場所を含めた職場環境は、正直あまり魅かれるものではないなと感じました。精神をサポートし、晴れやかにするために、日光と植物を取り入れる外資系のような職場にできたらいいなと思います。



10. 阪大の学食よりもコストパフォーマンスに優れているように感じました。カレーを食べたのですが、阪大の学食よりも美味しく、値段も同じぐらいでした。職員の方々はお一人食べられる方が多かったです。
11. 値段に対して非常にボリュームがあり、大学の食堂よりもコスパがいいと感じました。また、職場環境については、部屋や施設が非常に綺麗であったことが印象に残りました。その一方で、職員の数が非常に多く、休憩時の食堂がかなり混雑していたように感じたため、改善の余地があるのではないかと思います。
12. ・メニューについて：メニューは日替わりで和食、洋食とレパートリーがあり、毎日飽きることなくランチを楽しめると感じました。栄養バランスも配慮されていたと思います。価格もワンコインで良心的だと感じました。私にとっては適度な量で美味しく昼食を頂きました。・食事環境について：パーテーションは設置されていましたが、大学の食堂と比較してコロナ対策は緩めだと感じました。私はマグロの鉄火丼を頂きましたが、皿がべたついていて衛生面が少し気になりました。・職場環境について：今回訪問した他省庁と異なり、レトロな雰囲気です歴史の重みを感じました。一方、室内は最新の設備が整った利用しやすい環境で、快適に過ごせました。
13. メニューに海鮮丼定食があって、築地市場が近いということもあるので、とてもおいしそうだなと感じました。朝に海鮮丼を食べたので、食堂ではハンバーグカレー定食を食べましたが、とてもおいしかったです。
14. 大阪府の食堂にも行ったことがあるため、直観として行政らしくやや硬い雰囲気の食堂だと感じた。職場環境としては、売店やコンビニにも行きやすく、阪大よりもアクセスが楽で良いなと感じた。
15. 量が多く安かったのでお得ですが女性には少し多い印象もありました。バランスの良い食事が取れる環境が常にあることは非常に大切なことだと思いました。建物は古いながらも必要なものは概ね揃っているような印象でした。
16. 阪大の主な学食と異なり、一品ずつではなくて 1 食分セットで販売されているため、回転が早いと感じた。また、一食分のボリュームが多いため、もう少し低カロリーなメニューの種類が多いと選択肢が広がっていいのではないかと思います。
17. おいしかったです。今は亡き阪大の四階食堂の方がクオリティが高く種類も多かったです。楽しそうにランチをしている人があまりいなかったのも、お昼休みに息抜きが出来ているのか心配になりました。

3.2 環境省 環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室@環境省

環境省 環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと・学んだこと：(「自分で発表してみてもよび「他班の発表を聞いて」の視点で)

1. 環境問題の解決、特に消費者に関わるものは、特に反対勢力をいかに納得させるかが重要であるとわかった。そこを理解してもらえれば政策も行いやすく、かつ、住民の意識が上がるため政策の質も上がる。また、財務省で話を聞いた時も思ったが、環境問題をやらなければならない面倒ごとのように捉えるのではなく、もっと前向きな政策として行っているような印象を受けた。
2. 財務省への政策提言のあとに、環境省に政策提言を行ったため、それぞれの省庁の、政策に対する考え方や温度感の違いを感じた。また、環境省の担当者の方のお話によると、政策をすすめていく上で他省庁から反対されるといったお話もあり、国が考える「政策」というものが、国のあらゆる省庁の意見を踏まえた上でのものであるということを改めて実感した。具体的にどういった議論がなされて一つ一つの政策が成立しているのか(単なる省庁の利害対立になっていないか)など、もっと詳しくお話を聞いてみたいと思った。
3. 先輩方が中心となって取り組んできた分析や政策提言が、官僚の方々にもしっかり通用するものであると感じることができた。もちろん、突き詰めれば色々と思うことはおありになったと思うが、学生側の質問に対して、否定せず、やはり現場の視点からアドバイスをしてくださっていて、官僚の方の気遣いが垣間見えた。大学生という立場でも、一生懸命論文に取り組めば、現場の方々と交流する機会に巡り会えることに大変価値を感じた。
4. 環境省では他班の発表を聞くだけとなってしまいましたが、普段のゼミ活動では出てこないようなフィードバックをいただけたのではないかと思います。環境問題は多岐にわたりますが、環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室というように、部署が非常に細かく分かれている印象を受けました。部署が非常に細かく分かれていること



で個々の問題に対処しやすいという利点がある一方、環境問題は複数の課題が密接に関連していることもあると思うので、部署同士の協働がどの程度あるのか気になりました。

5. プラスチックごみ研究のサポートをした身として、その道のプロの方である環境省の方に対して発表することは非常に良い機会となった。環境政策を考え実行していくことはもちろん、その上での上司や地域住民に対する説得的な説明の必要性、また、優秀な人材が他の人気な省庁に行ってしまうことなど、様々な面について学ぶことが出来、実際に訪問して非常に良かったと感じている。
6. 自分たちが来年度、論文を書いていくために準備を進めている期間ということもあって、対象分野を考えている時に、改めて発表を聞き、環境という定量的に効果を示すのが非常に難しい分野にもかかわらず、論理的に分析、政策を提言していた平野班の方々を改めてすごいなと感じました。実務上での難しさや課題などをコメントしていただき、とても勉強になりました。
7. 環境省では他班の発表を聞く立場だったのですが、環境省の職員の方が非常に真剣に発表を聞いてくださって、かつ発表内容に肯定的な意見を述べてくださるのを見て、発表者はとても嬉しかっただろうと思うと同時に、お優しい方だなと感じました。実際に官僚の方に自分の考えた政策をぶつけるという機会はそうそうない本当に貴重な体験だと思うので、対面でできてよかったです。
8. ペットボトルの規格統一とそれによるリサイクル率の向上がなぜうまくいったのか今まで疑問に思っていたが、ペットボトルは使用する企業が限られているため悪者にされやすいという構造が存在したことを知り、容器包装プラとは似ているようでかなり異なっていることが分かった。容器包装プラはペットボトルとは比べ物にならないほど多種多様な企業が使用しているし、多くの種類と用途が存在する。似てはいてもペットボトルと同じ策をとってリサイクルを促進することはできないし、その点がリサイクルの問題をより難しくしているのだと感じた。
9. 政策を考える際に、まず理想の世界を考えて、それにたどりつくまでには何が必要かと考えるというのは、基本的に見えることながら勉強になりました。理想の世界を考えるというよりは、問題点を探すことに躍起になっていた部分が大きいと思うので、来年は理想の世界も考えたいと思います。そして対抗勢力を想定するという話もためになりました。やはり政策によっては、それで損をする人が存在するため（ほとんどがそうかも）その対抗勢力の立場も考えつつ論理や施策を考えると、より深さのある論文ができそうだと感じました。
10. 財務省での発表でも指摘されていましたが、「ある政策を実施して、何を変えたいか。また、それを変える必要があるのか」という観点がまだまだ考え切れていなかったと感じました。また、仮にそれを考えることができたとしても、政策の実行に関するステークホルダーの説得につなげることはまた一段難しいものであると感じました。

11. 自分で発表しましたが、私たちの現状分析はかなりの確にまとめられていたのではと思います。また、問題意識についても環境省の方と近いものを持っていたように感じました。その一方で、分析や提言にはまだまだ足りていない視点が多くあると実感しました。また、提言の実現可能性についても、財務省の方とは異なる実務的な視点から指摘をいただき、再度検討すべき箇所を知ることができました。環境政策を考える際の難しさについても教えていただけるなど、今後の提言に生かすことができるお話をたくさん伺うことができました。
12. プレゼンテーション全体の理論づけがしっかりしていて、課税についても行政の実現可能性が保証されているとの評価を頂き、非常に嬉しかったです。研究内容を概ね高評価して頂き、満足のいく形で1年を締めくくることが出来ました。環境政策は政策の効果が出るまで時間がかかるため、目標設定や達成手段の検討が難しい分野だと改めて感じました。理想と現実を区別し、目標に縛られ過ぎず、世界の動きを見ながら、少しでも環境問題を改善出来る仕組みを考えていく必要があると思いました。
13. 自分の班がリサイクル班だったので、少し緊張したが、担当者の江藤様が阪大OGということもあり、少し緊張が和らいだ。環境政策を考えるうえでのポイントや今後の環境省の容器包装プラスチックリサイクルの方針を伺えたので、とても勉強になりました。議論してみて、やはり、環境政策は「目に見えた利益」がないので、費用対効果を算出しにくく、国民の同意を得にくいことが難しいと思いました。
14. 環境という難しい定量的（金銭的）な価値を見出しにくい分野において、環境省がどのように取り組んでいるのかその一端を感じ取れた気がした。特に他省庁との折衝の話が印象に残っている。SDGsや持続可能な開発が叫ばれている現代において、国としての程度の目標を立てて、経済産業省や農林水産省などの関連省庁と折衝・共同していくのか関心が強まった。
15. 政策をつくる立場から見た実際のポイント・要点を教えていただけたことが大変貴重な機会だった。例えば、リサイクルを阻む要因に関して、自分自身が考えていた要因以外で官僚の方が肌感覚で感じているものを教えていただいたことだ。また、各省庁間で考え方が異なることがあることを、実際に伺うことも貴重だった。今後、理想の社会を描くにあたり反対する省庁や勢力を想定する重要性や、その勢力が生じる仕組みについて学ぶ機会になった。
16. いただいた指摘の中で、論文執筆をする中でリサイクルが進まない要因の1つとして、容り法に基づいた回収を行わない自治体が4割存在するという点に関しては、政治的な障壁もあり初期費用負担解消だけでは難しいのだと改めて感じた。その場合、環境に優しい自治体になることにインセンティブを抱かせるといった別の方法を取るべきだと思った。また、容り法元々の法律の意図とは異なって各自治体で展開されているということは初めて知ったので、この法律に限らず他の分野に関しても同じような現象が起きている実情があるのだろうと感じた。

17. 環境省の方のお話を聞くことで、市町村において分別回収は努力義務であり、分別回収を市町村が行うかと市民のやる気があるかという 2 段階があるということを、改めて理解できました。平野班の提言は、2 段階のどちらともにアプローチできているのではないかと思います。

3.3 内閣府 PFI 推進室@内閣府(特別ゲスト:PFI 推進機構社長)

内閣府 PFI 推進室への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと・学んだこと：(「自分で発表してみて」または「他班の発表を聞いて」の視点で)

1. 発表を聞いていたころから難しいと思っていたが、もっと難しい話だった。しかし、政策提言は前向きに聞いていただいた印象を受け、私の班ではないのだが、自分たちの考えた政策、全くの想像の範囲でしかなかったものが、実現するかもしれないと努力が報われたような達成感があった。いただいたフィードバックから考えると、PFI 推進室の方々も相当苦心されてきたのだなと思い、頭があがらない。
- 
2. なんとなく理解したつもりだった PFI だったが、VFM ひとつを取り上げても、いかにまだまだ現状を認識できていなかったかを痛感した。制度のみを理解した上で見えるものと、制度に加えて人間の感情や戦略が入った現実とでは見えるものが全く異なると思った(例えば、VFM は意思決定する人間が、潜在的入札者に向けて作成している指標である、など)。論文執筆においては、現状を深く理解するためにも、ヒアリングを丁寧に行う必要があると思った。
3. PFI 班の発表が、専門的な内容が多く、最初は理解できなかったように、今回の内閣府の方のお話も自分の勉強不足さを感じた。自分の班だけではなく、他の班がやっている内容についても詳しい議論ができるくらい、多様な社会問題に関心を持たなければいけないと感じた。4.5 人ぐらいの方々が来られていたが、それぞれ違う視点でアドバイスされていた点に、物事の見方の多様さを感じた。それは単に役職の違いだけでなく、個人としてさまざまな勉強をされているのだろうなと思えた。
4. 私は冒頭部分を発表したのですが、対面の発表かつ内閣府の方を前にしていたので、だいぶ緊張しました。PFI 推進室という、PFI を専門に扱っている方からの意見を聞くことで、現状の問題や今後の方向性を知ることができ、大変勉強になりました。VFM に

ついて細かく解説していただき、より理解が深まりました。また、自分たちが考えた政策に対して実際に政策を考えている立場の方から面白いという言葉をいただけて良かったです。

5. 内閣府での発表は、ゲストが多く来ており、PFI がいかに重要視されているかということが伝わってきた。また同時に、VFM などを分析するときに留意すべき点なども教えていただき、内容が難しく容易には理解することが出来なかったが、来年論文を書く上で参考になる学びであった。終了後の OB・OG の方の話も、これからはもしかしたら目指すかもしれない進路のため、大変勉強になった。
6. 自分たちが抱いていた懸念の一つにもなっていた PFI の VFM という指標自体が恣意的だという視点を、大変丁寧に指摘していただき、とても勉強になりました。また、自分たちが 1 年間考えてきた施策が、現場の問題点を的確にとらえ、それに対処している政策だと思いますと、ほめていただいたことが、とても嬉しくて印象に残っています。
7. 内閣府 PFI 推進室は、よく HP や資料を引用したり参考にさせていただいたりしていた部署なので、実際にそこの担当者の方にお目にかかれるというのは光栄なことでした。また、部署の方が私たちの発表に対して事前資料まで用意して対応してくださったのは、論文を書く者としては冥利に尽きると思いました。担当者の方々が本気で国が良くなるように考えていらっしゃるのを感じ、モチベーションが高まりました。
8. PFI 事業者の実際の声や、PFI 研究において VFM が分析対象としてどのような問題をはらんでいるか伺うことができ参考になった。民間企業の声を行政側から聞いたことを通して、PFI に限らず事業にかかわる様々な立場すべてから話を聞くことが大切だと思った。欲を言えば、論文執筆と研究が終わってしまった後より研究している時にお話を聞ければよかったと思う。
9. まずは人数の多さに期待値の高さを感じました。一番右端の方は、パワーポイントの資料を見て、話を聞いてみたいという気持ちになり参加したとおっしゃっていて、改めて先輩はすごいなと思いました。しかし、なぜこれを先行研究にいれていないのか？などの指摘を受ける等、意識を高くもった勉強をしなければいけないと感じさせられました。ただ、提言した仕組みについて、学生の率直な意見として受け止め、十分考えなければという旨のことをおっしゃっており、問題があると思ったところに、素直なメスを入れるということを見習い、来年活かしたいと思います。
10. 上記と同じく、「ある政策を実施して、何を変えたいか。また、それを変える必要があるのか」という観点がまだまだ考え切れていなかったと感じました。また、PFI の発表という面では VFM という指標そのものについての理解・洞察が不足していたと感じました。使うツールや情報、データについては深い理解を以て論文に盛り込む必要があると学びました。
11. 発表を聞いて、発表者たちの PFI に対する理解の深さに担当者の方々が感心しているように感じました。私たちの発表時と比べてかなり踏み込んだ内容についての議論も

多かったように思いますが、それだけ熱意を持った方々が多かったのではないかと思います。また、担当者の方が「興味をもってくれただけで嬉しい」というようなことを仰っており、PFIは複雑であるものの今後より一層研究が進むべき分野であると感じました。それだけのテーマを研究していたことを実感しました。

12. 他班の研究テーマだったこともあり聞きなれない専門用語も多く、議論についていくのが少々難しかったです。官と民の間でリスクへの考え方や物価、賃金上昇への対応策などに違いがあると伺い、官民協力はそれらの相違点を乗り越える必要のある事業だと感じました。また、官民間の敷居を下げ、人材の流動性を高めていくことがPFIの更なる活性化に繋がるというお話を伺い、PFIには改善点がまだまだあると分かりました。また、今回の論文ではVFMに着目していましたが、VFMを増加させることがPFI推進に繋がらないのではないかとという新たな視点を提示して頂き、PFIの研究は奥が深いと感じると共に望ましいPFIのあり方について官民双方が検討していくことが重要だと感じました。
13. 政府の担当者から「政策提言のアイデアが素晴らしい」と言われているのを見て、改めて赤井ゼミで作上げたものはすごいものだったと認識した。芦原様が作成したプリントには、かなり専門的な知識も含んだアドバイスが書かれていて、日々の業務と併せてプリントまで作ってくれるなんて、とても優しい方だと思った。ほかの担当者の方も、勉強になるコメントばかりでした。
14. 多くの方からフィードバックを受ける事ができ、それぞれの方が各々の視点でPFIを捉えていると感じた。それらを受け、まずPFIが本当に良いのか？研究の着眼点・手法はベストなのか？PFIに限らず他国の事例はどうか？等々研究においては本当に幅広い視点が必要であり、来年4回生としてゼミ執筆の携わる中、視野狭窄にならないように自分こそ多角的な視野を有していきたいと思った。なにより、一年間の活動を通じてその道のプロの方から例年以上に厚いフィードバックを頂いて大変うれしかった。
15. 官僚の方の指摘の鋭さや洞察の深さに感銘を受けた。自身の勉強不足を実感できる機会だった。そもそもVFMだけに焦点を絞ることが正しいのか、また、扱うデータのばらつきなど前提から学ぶ点が非常に多かった。さらに、PFIファンドの社長の方の意見も踏まえて、実際現場でどのような意見が多いのかという点も沢山伺うことができ、提言に反映できなかったことを反省した。
16. こうした官民が一体となって取り組むべき課題について、「官と民が同じ言葉で話す」というワードが非常に印象に残った。両者は違う立場からPFIに取り組んでいるからこそ、相手に事情をわかってもらい、両者にとって良い取り組みを進めることが最善であるということの重要性を改めて感じた。また、PFIが通常の公共事業の入札方式と違って機会コストが高いため応募したがないという視点も非常に納得できたと同時に、非常に難しい問題であると感じた。

17. 私たちが論文で取り上げる課題については、すでに国の担当者によってよく考えられており、1年で提言を考えるのは難しいなと感じました。一方で、データベースを作る提言に関して若者らしい新しい提言だという言葉があり、現場を知らないなりに学生にもできることがあるかもしれないと思いました。

3.4 今回の政策提言ツアー全体への感想および、実際の政策決定を行う担当者との意見交換の場（中央省庁、地方自治体、その他など）やそのあり方についての意見・希望

1. 政策決定を行う方々に政策提言を行うというのは、1年間論文を執筆してきたそのゴールに相応しいと感じた。実務をされている方に評価されること、また、ならではの視点でアドバイスといただくことは、論文執筆に限らない今後のモチベーションを大きく向上させたと思う。今後もぜひ続けさせていただきたい。ご飯は農林水産省が一番美味しいと聞いたのでぜひ食べてみたい。
2. 霞が関という地域を肌で感じ、そこに立つ中央合同庁舎の内部を見て、またそこで働く人々と直接交流するという機会は、自分にとってものすごく刺激的だった。質問の機会も十分とっていただき、とても満足した。今は状況的に難しいかもしれないが、職員の方と一緒に食事をしたりして、職員の方が所属する省庁のことや政策のこのみならず、職員の方自身が個人的に考えていること等についてもっと聞いてみたいと思った。
3. 普通に大学生生活を送っていたらなかなか足を踏み入れることができない場所に行くことができ、貴重な経験になった。意見交換の場として、実際の庁舎に対面で行けたことがとても印象に残っていて、今後もできるだけオンライン開催ではなく対面での開催があればいいと感じた。また、建物内の紹介などがあれば、より省庁に興味を沸き、官僚を目指す動機も出てくるのではないかと感じたので、今後政策提言ツアーがあれば、もっと官僚を知る機会があればいいと考えた。
4. 赤井ゼミに入っていなければ経験できなかったであろう貴重な機会をいただけて非常に満足しました。去年は先輩に付いて行ってばかりで政策提言の部分は少し関わっただけですが、今年は自分たちが主体となって一から考えていくので、また1年後の政策提言ツアーが楽しみです。フィードバックに加え、日本経済についてお話しいただいたように、実際に国を動かしている方からの講義もまた受けたいと思いました。
5. 今回の政策提言ツアーでは、個人ではなかなか行くことのできない中央官庁に訪問し、発表までさせていただき、非常に良い経験と学びになった。担当の方とも、発表内外にコミュニケーションをとり、有意義な意見や実際の職場の状況を伺えるなど興味深いことができなかった。自らが提言したいと思う政策を、実際の遂行者の前で発表する機会は重要であると思うため、今後も継続して行いたいと思った。

6. 自分たちが1年かけて作った論文が、社会において役に立つ可能性があるとなると実際に肌で感じるこのことのできるいい機会であると同時に、実際に政策を実行するとなると、いくつもの壁が存在するのだと厳しさも、知ることのできる機会でした。また、ブラックできつそうなだけというイメージを勝手に抱いていたのですが、霞が関で実際に働いておられる方の雰囲気や表情などをみて、しんどいながらも自身の仕事に対してやりがいを感じておられるのだとわかりました。
7. まずは、政策提言ツアーが対面で開催することができて本当に良かったです。実際に行かなければ分からない生の省庁の雰囲気などを感じることができたのは、本当に貴重な体験になったと思います。また、中央省庁の方や地方公共団体の職員の方が私たちの政策提言に本気で向き合っていていただいているのを感じ、来年の自分の発表へのモチベーションが本当に上がりました。
8. 財務省の方がおっしゃっていたように、紙1枚だとかボード1枚に提言をまとめて発表するのはとてもわかりやすく良いと思った。今まで考えてきた内容を整理することにも役立つし、何より現状分析の部分は省庁や自治体の担当者の方のほうが詳しい部分も多くあると思われるので、その説明を長々とするよりも問題意識の背景や提言について長く話すほうがより深い意見やお話をいただけて今後の参考になるのではないかと思った。
9. とても貴重で刺激となり勉強にもなる経験でした。実際の担当者の方々は、学生に対して真摯に耳を傾けているように感じ、その期待や忙しい間の貴重な時間に応えられるようにしようという、来年への熱量が大きくなりました。主査の方の話からは、まず突き返す、しかしそうしつつも同時に、もって来られた政策を適切に落とし込める案を考えるとおっしゃっており、実務の現場が垣間見えて、とても面白いなと思いました。とんでもなくおこがましい希望ですが、政策提言ツアーの日の夜に、3回生限定等話しやすい人数で、政策担当者の方と食事ができれば嬉しいです。あまり学生におっしゃってくれるか分かりませんが、オフレコな話や仕事哲学のようなことを、その場で聞いてみたいです。
10. 再三の登場で申し訳ありませんが、やはり実務的側面からの詰めが甘かったことが印象に残っています。その一方で、そのあたりも含めて頭を使い続けている官僚の方々に対する尊敬が高まった機会でもありました。今回のツアーでお会いした方はどのお方もスマート且つ日本をより良くしたいという情熱に満ちており、素直に格好良かったです。
11. 省庁の方々との意見交換を行なうことができ、非常に貴重で有意義な機会をいただけたと思います。今回の議論を通じて私たちの提言の足りない部分についても気付くことができました。私たちの提言の中には都道府県や市町村を対象としたものもあるため、中央省庁以外の方とも意見交換ができる機会があれば嬉しいです。また、午後のスケジ

ュールがかなり押しすぎてしまいかなり慌ててしまったため、難しいかとは思いますがもう少し余裕のあるスケジュールだと嬉しいです。

12. はじめに、コロナ禍の中、対面で政策提言ツアーを受け入れて頂いた財務省、環境省、内閣府の皆様に深く感謝申し上げます。プレゼンテーションでは学生目線からの政策提言を評価して頂くと共に、実務者目線から提言へのフィードバックや他の政策手段の提案など、今後の研究に向けて有益なコメントを多数頂くことが出来ました。提言ツアーを通じて、政策立案と実行には難易度に大きな差があると改めて感じました。限られた予算内で何にどれだけ予算を割くのか、何年でどれだけ効果が出るのか、政策のゴールをどこに設定するのか、受益者と負担者の関係はどうなっているのか、国民や政治家に政策への理解を得られるのか等、政策を実現させるためには検討すべき重要な論点が多数あると分かりました。約 8 か月と限られた執筆期間内でこれらの論点全てを検討することは難しいですが、今回頂いた講評を基に実務者目線を取り入れ、少しでも実現可能性の高い政策提言が出来ればと思いました。最後に、今回の政策提言ツアーを企画して頂いた赤井先生に深く感謝申し上げます。
13. 全体を通して、行政に関わる方々の生の声を聴くことができたので、とても勉強になりましたし、来年のゼミでは今回勉強したことを意識して取り組みたいと思いました。また、このような経験ができたのは、赤井先生、ゼミ生の皆、政府関係者の皆様のおかげです。改めて、ありがとうございました。今後も、このような貴重な経験ができることを楽しみにしています。
14. 学生目線と行政の目線で政策提言で必要な観点が違うという事を強く感じた。特に施策効果とコストについて抜け落ちていると思うので来年度以降はこの施策を実際に行うにあたっての課題というものを現状分析以上に詰めていきたい。意見交流の在り方とは、自分たちの提言と関連の強い地方自治体との意見交換があっても良いと感じた。例えば、PFI なら実施件数が多い自治体、モーダルシフトなら港湾機能が強い自治体の関連部署等になど。そうする事で、提言ツアーと併せ、行政の上流から下流までの意思決定の視野を身に着ける事が出来ると思う。
15. 全体を通してなかなか経験できない貴重な機会であった。実際の政策立案者にコメントをいただくことで官僚の方のレンズを覗くことができた。もう少し規模の小さい組織（地方自治体等）に対して同様の取り組みを大会前に実施できるとより良い論文が執筆できると思う。また、政策に関する事以外でもカジュアルに質問できる場があればさらに嬉しい。
16. 3年間提言ツアー及び官庁職員の方との意見交換の場に参加して、職員の方たちがどのような点に気を配って政策を立案しているのかという面で非常に勉強になった。その中の多くが分野横断的に汎用できる視点であり、今後自分が同じ立場になった際には心がけて取り組んでいきたいと思った。また、提言ツアーでの発表形式について財務省の方からもあったように、パネル形式で発表するなど論文での分析の結論や提言内容

がメインに伝えられる形式に変更すべきだと思った。現状分析の思考過程を伝えることも大事かもしれないが、専門の職員の方にその分野を説明するだけの時間も多く存在しているので、要点だけにした方がいいと思う。

17. 国レベルで社会を動かしている人のお話を聞けることはなかなかないので、非常にありがたいです。地方の担当者からは現場の意見を聞けますが、省庁の方だと現場の実情も知りつつ、俯瞰した意見を言ってもらえるように思います。国でも地方でも、提言へのアドバイスを聞くたびに政策を作るのは難しいと感じますが、いろんなレベルからの見方を得られる機会があるのは、本当に貴重だと思います。

3.4 阪大(東京) オフィスの印象

1. ビルの中の一室で、中は普通に会社のオフィスという見た目だった。何をしているのかあまり分からなかったのだが、霞が関にあるということなので、各省庁と連携して大阪大学で何か出来たらと思う。
2. 都心にあるためアクセスしやすく、また部屋もいくつか完備されており、充実した施設だと思った。卒業しても利用できるようなので、これからもぜひ利用させてもらおうと思った。
3. 阪大を感じさせるパンフレットや映像があったのが印象的だった。応接室の他にも様々な部屋があり、想像以上に広かった。早めについた時に、個人的にもう少し探検しておくべきだったなと感じた。
4. 霞が関の敷地内に大学のオフィスがあるということを初めて知りました。東京オフィスは常に人が駐在しているのか、教授が霞が関へ来た際のためのものなのか、どのような役割なのか疑問に思いました。
5. 霞ヶ関という好立地にあり、かつ内装も洗練されたオフィスだと感じた。学生も利用できるという話を聞いたので、東京を訪問した際はぜひ利用させていただきたいと思う。
6. こじんまりとしたところだなと感じました。立地も、東京駅からもそこまで遠くないため、東京に行った際に、利用しようと思います。
7. 阪大に東京オフィスがあることにまず驚きがあり、またそれが霞ヶ関のど真ん中にあるというところに、阪大のブランドを感じ少し鼻が高くなる気分でした。
8. まず東京オフィスというものがあることに驚いた。きれいで設備も整っている印象を持った。



9. とても良い場所にあるなと思いました。また、中も綺麗で整っているなと感じました。普段はどのような必要性で、なにをしているのか気になりました。また、東京の大学は、このように首都用の出張所を設ける必要がなく、その点でも都市部は有利だなと思いました。
10. 官庁に近く、官庁訪問を行う法学部生やその他の学部生・院生には嬉しいのではないかと感じました。
11. 非常に綺麗で、もし機会があればまた利用したいと思いました。そもそも東京に阪大オフィスがあることを知らなかったため、もっとPRしてもよいのではと思います。
12. ビルの一室で予想していたより小さなオフィスでしたが、きれいで使いやすかったです。駅や省庁からのアクセスも良かったです。
13. 存在自体はうっすらと知っていたが、実際に訪問してみて感じたこととしては、とてもきれいなオフィスだなということと、すごい霞が関の中心と豪華な立地だということを感じた。
14. 会議室等、基本的な施設が備わっていると感じた。ただ今回のツアーで初めてその存在を知り、普段こういった役割を担っているのだろうかと思った。
15. 非常に綺麗で落ち着く空間だった。東京にも母校の拠点があることは大変心強いと感じた。ぜひまた訪れたい。
16. 駅からのアクセスもよく、立地が素晴らしいと思った。こういった用途で利用されることが多いのか気になった。
17. どれくらい利用者がいるのかは疑問ですが、霞が関すぐ近くにきれいなオフィスがあるのは、赤井ゼミにとっては非常に便利だと思います。

5. 政策提言ツアー実施の効果：企画者のコメント

2013年度に政策提言論文の全国大会にゼミ論文をエントリーし、その成果を実際に霞ヶ関での政策担当者に見てもらいコメントをもらうという「政策提言ツアー」を開始して、今年2021年度で9年目となる。毎年、財務省をはじめ、政策に関わる担当の省庁のみならずには、大変お忙しいところ、若い学生のチャレンジの応援という形で、お時間を作っていたでいる。感謝したい。実際に政策を設計している担当者と意見交換が出来る機会があることは、論文執筆の大きなモチベーションにも、また、今後、社会・政策のあり方を考える上で、貴重な体験となる。この体験をした学生が、社会に出て、社会問題に直面したときに、民間部門であれ公的部門であれ、この経験が役に立つことがあると確信している。それでこそ、企画者および対応していただいた皆様への恩返しとなるのである。この企画の継続には、時間も苦労も多いが、学生の成長があってこそ、やりがいがある。継続は力なり。